



『考える救命士の養成を目指して』

| | | |
|---|----------------------|----------------------------|
|  | 都道府県名 | 神奈川県 |
| | 所 属 | 川崎市消防局臨港消防署 |
| | 氏 名 | 中村 清明 |
|  | 職名・階級 | 救急係長・消防司令 |
| | 指導救命士養成研修 受 講 時 期 | 平成28年度 指導救命士養成研修 第1期 修了 |

1 指導救命士認定後の主な取り組み内容や活躍状況について

川崎市では、国や県の基準に基づき平成29年3月に「川崎市メディカルコントロール協議会指導救命士運用要綱」を定め、指導救命士の運用を行っています。私は、平成28年度指導救命士養成研修第1期を修了し、当市の認定要件を満たしたことから、平成30年6月に神奈川県メディカルコントロール協議会に指導救命士として認定されました。現在、当市では12名の指導救命士が認定され、活動しています。

現在の主な業務は、救急係長として全救急活動の検証、事後検証対象事案の一次検証、救急業務の管理、救急隊の指導や消防隊等の教育を行っています。

当市では、平成31年4月から救急隊にターニケットを導入する予定となっています。導入に向けた救急隊員の教育体制は、医師から直接教育を受けた指導救命士が280名の救急隊員（救急救命士含む）に指導をすることとしています。私は、平成30年10月に医師が実施する教育研修を受講し、現在は救急隊員に講義と実技指導を実施しています。また、その他の救急隊員の指導では、九州研修所で培った指導方法を用いてシミュレーション訓練等を実施しています。

その他に、指導救命士として、川崎市メディカルコントロール協議会（以下、川崎MC）作業部会幹事となり川崎市における救急体制の充実・強化に携わっており、新しい資器材の導入の検討、各種プロトコルの改正、救急隊員の教育方法等について医師などと意見を交わし検討しています。また、各種学会への演題応募に際して、署内及び局内での選考、発表スライドの指導、学会発表技法などについても指導しています。

2 特に苦労した点・工夫している点

救急救命士は、新規救急救命士と現任救急救命士に分けて指導する必要があります。それぞれの救急救命士がどの程度のレベルにあるのかを見極めて指導することを心がけています。

「救急救命士としての基本を身に付けるために」

新規救急救命士は、救急救命士養成学校を卒業後に採用された職員もおり、救急業務に関する実習や学習にブランクがある職員も多くいます。そのため、直近の国家試験問題を活用して国家試験レベルの知識が備わっているのかを確認することから始めています。特定行為基本手技訓練では、山本五十六の名言「やってみせ、言って聞かせて、させてみせ、ほめてやらねば、人は動かじ」を基に、安全、確実な処置ができるように実技指導を行っています。

「経験と教育の差を埋めるために」

現在の救急救命士は、新規養成研修からしっかりとした教育がされており、基本手技や想定訓練を適切に対応できる印象を持っています。しかし、その力を救急現場で発揮できない隊員もおり、その隊員の教育は救急現場で行うことが最も効果的であると考えています。私は、救急隊長として勤務していた時は、傷病者を目の前にして隊員に指導を行い、隊員に経験を積ませることを積極的に行っていました。しかし、現在は救急車に乗車することは少なくなり、現場で指導できる機会は限られています。現場で直接受けた指導や体感したことなどは経験として強く残るものですが、それができない現在の状況で、どのような指導が有効なのか、どのようにすれば経験に近い指導ができるのかと毎日考えています。

指導救命士養成研修で培ったシミュレーション指導方法を基に、訓練を実施していますが、その中でも特に大切にしているのは、シミュレーション終了後のフィードバックの時間です。活動内容の否定はせず、訓練中に何を考え、活動をどのように組み立てたか、その考えに至った知識などを聞き出し「考える救命士」を養成できるよう指導しています。

3 最後に

救急救命九州研修所の「指導救命士養成研修」では、素晴らしい教育を受けることができます。すでに研修を受講した指導救命士の方は、研修で得たものを救急救命士の指導に役立てていると思います。これから入校する方も含めて「指導救命士養成研修」を受講した指導救命士が全国で救急隊員を指導することで全国の救急隊がレベルアップすることを期待しています。